

2月のクラフトサークルの定例会は久しぶりの花炭づくりを実施しました。花炭は素材をそのままの形で炭化させたものです。

コロナのため11名と参加者は少なかったですが、甘樫丘の炭焼き小屋の前で実施したため散策に来られていた方とのふれあいも楽しかったです。

花炭は、五百年もの昔から、茶の湯などの茶室などで菊炭と共に使用され、飾り物としても使われていたようです。飾り炭や花炭の活性効果は、他の炭ほどではありませんが、インテリア等にもなります。

このように持ち帰って皆さん飾られたと思います。



これは蓮の実、松ぼっくり、ビナンカズラ（小さい丸い実のかたまり）、カラスウリ（卵型の二つ）、ひえか栗（穂）細長いのはお箸です。



このように色んなものをアルミホイルに包み、おかき等の缶にもみ殻を敷きアルミホイルに包んだものや、固いものなどはそのままもみ殻に埋めて、缶に何か所か穴を空けて針金でくくります。

そしてブロックや鉄の棒等を使い簡易五徳をつくり、缶を並べて火をつけました。



缶の蓋にいくつかの穴を開けてあるので、その穴からの煙が白から無色に近くなるとできあがりです。

注意しないと缶の蓋が緩くて空気が入り中で燃えだしたりします。缶を針金でくくるのも蓋がうかないようにするのと、火からおろす時に持ち上げやすくするためです。



これはアルミホイルを取ってしまったものもありますが、このようにもみ殻があることで缶に直接材料が当たり燃えてしまわないようにする役目があります。

この人はもみ殻を使わないで丸い割りばしを敷いて材料をホイルで包み入れていました。
蓮が綺麗に炭化されています。

その缶の中に右のようにアルミの入れ物にいれたものも綺麗にできていました。

これ参考になりました。次回私も挑戦してみよう。

このように沢山のひとと体験すると参考になることがあります。



大きな松ぼっくりが綺麗に炭になりました。

ウバユリ（種がはじけた後の実）も綺麗に壊れずに炭になっています。

これはかなりふんわりとアルミにくるんでいました。

薄くきっちり巻いたものはほどくときに壊れたりしていました。



4月の定例会で作った木の勾玉を炭にしている人がいました。よく見ると年輪もわかります。



これは栗のイガも綺麗に炭になっています。



このように籠に入れて飾るのもいいです。



このように色々な体験を自然の中で楽しみませんか。

今飛鳥里山クラブ第28期生の受講生募集をしています。1年間養成講座を受講していただき、里山風景を守りながら、飛鳥の歴史や自然環境を学び、飛鳥に来訪される方々にボランティア活動を通じてその魅力を伝えてみませんか。

飛鳥里山クラブの募集とお問合わせ先について

クラブ員は毎年2月頃、新規募集を受け付けています。

ご興味ある方はご案内をお送りしますので、下記までご連絡ください。

国営飛鳥歴史公園・飛鳥里山クラブ事務局

〒634-0144 奈良県高市郡明日香村大字平田 538

TEL : 0744-54-2441 FAX : 0744-54-46333